

# リサイクル料金が支える持続可能な循環型社会

日本には、世界に誇れる自動車リサイクル制度がある。その中で自動車ユーザーは、車の購入時に「リサイクル料金を支払うことで、自動車リサイクル制度を支えるだけでなく、自動車リサイクル促進センターが行うESG投資を通じて、環境問題や社会問題の解決にも寄与し、持続可能な循環型社会の実現のために重要な役割を果たしている。

天

天然資源の枯渇や廃棄物最終処分場の逼迫、地球温暖化、自動車の不法投棄といった社会問題を背景に、05年から日本の自動車リサイクル制度が本格稼働した。現在、年間300万台以上発生する使用済自動車のほとんどがリサイクルされている。

ただし、具体的な自動車リサイクルの流れについては、あまり知られていない。ユーザーから引き取られた使用済自動車は、まず、廃油・廃液を回収する。次に、地球温暖化に影響を与えるカーエアコン用冷媒を回収、無害化し、リサイクル工程で誤作動の恐れがあるエアバッグも専門技術により適切に処理する。もちろん、まだ使用可能なエンジンなどの基幹部品やドアなどの外装部品は丁寧に取り外し、リサイクル部品として商品へと生まれ変わる。残された車体もシュレッダーにかけて後、鉄・銅・アルミなどの有用な資源ごとに分別・回収し、再生資源として再利用する。その間、

解体事業者や破砕事業者など多くの事業者がそれぞれの役割を担い、自動車リサイクル制度が機能している。もちろん、自動車ユーザーも大切な役割を担っている。

「JARCは、多様なステークホルダーと連携を図りながら持続可能な循環型社会の実現に貢献し、使用済自動車の適正なリサイクルや資源の有効利用、環境保全に寄与する活動を行っています。具体的には、自動車リサイクル制度の指定法人としてユーザーから預かっているリサイクル料金の管理と運用、適正な処理やリサイクルが求められるエアバッグ類、フロン類、シュレッダーダストの3品目の移動報告情報の管理を行っています。また、不法投棄や不適正保管、離島地域に関する地方公共団体向けの支援などのセーフティネット事業を担っています。特にリサイクル料金の管理・運用には、ユーザーに安心して自動車リサイクル制度に参加して

もらうためにも、強い責任感を持って取り組んでおります」(大久保理事)

**ESG投資額が165億円に到達**

21年12月末時点で、JARCが自動車ユーザーから預かっているリサイクル料金の資産残高は約9182億円に及ぶ。「預託されているリサイクル料金の運用は、安全、確実に行うことが重要であるため、現在は国債、政府保証債、地方債、財投機関債などの安全性の高い資産に限定して投資を行い、元本確保を前提として運用しています」と大久保理事は説明する。

18年からは、持続可能な社会の実現に向けた新たな取り組みとして、ESG投資を開始した。JARCのESG投資の基盤は三つある。1点目は「資金使途



自動車リサイクル促進センター 資金管理センター 神山 晃 主幹  
自動車リサイクル促進センター 資金管理センター 新井 真太郎 主事  
自動車リサイクル促進センター 大久保 英明 業務執行理事

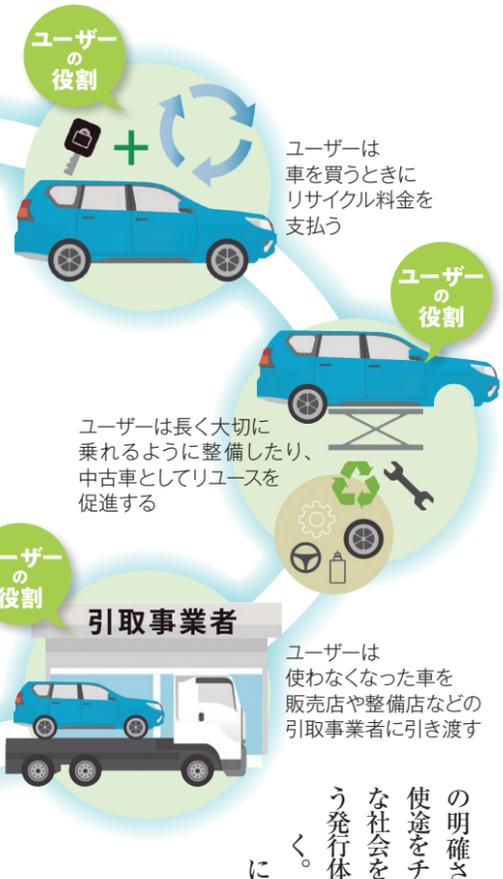
自動車リサイクル促進センター (JARC) の大久保英明・業務執行理事 (CFO) は、「自動車ユーザーはリサイクルのために自動車購入時に前払いで1万円程度のリサイクル料金を支払いますが、そのお金は、エアバッグ類、フロン類、シュレッダーダストの3品目を適正に処理するために充てられます」と話す。

自動車ユーザーが支払ったりリサイクル料金は、自動車を使用済みとなるまでの間、預託金として

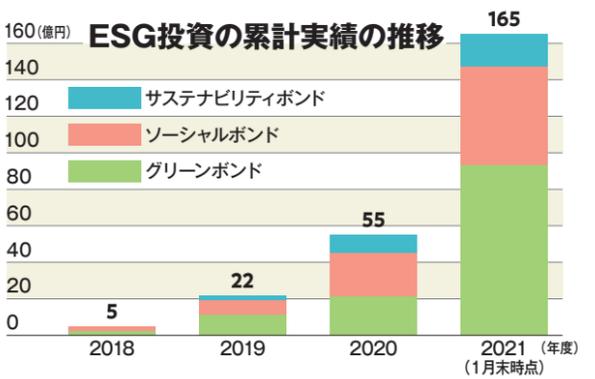
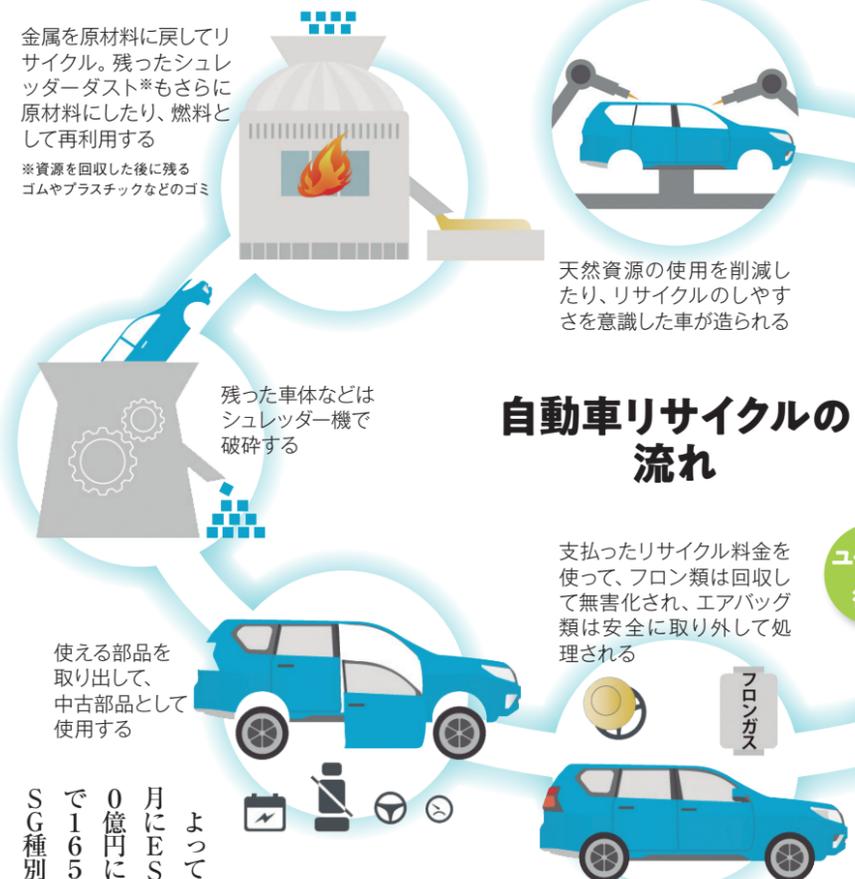
「ESG債の発行体とのエンゲージメント(目的を持った対話)についても積極的に行っていきます。一般的にエンゲージメントは株式の分野で先行していますが、私たちは多額の資金を運用する債券投資家として、持続可能な循環型社会の実現に貢献するため、債券の分野で先駆けて発行体との対話を実施しています」(大久保理事)

1月までに五つの発行体とエンゲージメントを実施。例えば、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構(JRTT)とは「運輸部門が占めるCO<sub>2</sub>排出量及びその削減努力について」、長野県とは「気候変動がもたらす自然災害の激甚化及びその対策について」などのディスカッションを行った。

また、今後は社債への投資も予定しており、ESG債への投資を拡大することで、機関投資家としての社会的責任を果たしていく考えだ。



## 自動車リサイクルの流れ



**発行体とのエンゲージメントを重視**

「ESG債の発行体とのエンゲージメント(目的を持った対話)についても積極的に行っていきます。一般的にエンゲージメントは株式の分野で先行していますが、私たちは多額の資金を運用する債券投資家として、持続可能な循環型社会の実現に貢献するため、債券の分野で先駆けて発行体との対話を実施しています」(大久保理事)

の明確さ」。発行の目的や資金使途をチェックして、どのような社会を実現したいのかという発行体の理念を読み取っていく。2点目は「環境や社会に対する改善効果」。ESG債である以上、その債券にどれだけの環境改善効果や社会的なインパクトがあるかが重要になるからだ。そして3点目は「ガイドライン等への適合及び第三者機関による評価」。

まず、国際資本市場協会(ICMA)のグリーンボンド原則やソーシャルボンド原則、環境省のグリーンボンドガイドラインなどに則って発行されているかを確認し、その上で第三者機関から評価を受けていることも重視する。

こうした投資基準によってJARCでは、21年9月にESG投資の累計額が100億円に到達。22年1月末時点で165億円になっている。ESG種別の内訳で見ると、グリ

問い合わせ先  
公益財団法人  
自動車リサイクル促進センター  
<https://www.jarc.or.jp/>